

2 . 作物（水稲・畑作物・果樹等）関係の技術・営農支援情報

地震被害を踏まえた水稲作の営農再開にあたっての移植晩限

- 1. 令和6年能登半島地震により、水田圃場そのものや、用排水路の損壊が多数発生しています。本資料では、これらの損壊の復旧後に、秋冷までに収穫するための水稲品種の移植晩限を紹介します。
- 2. 日平均気温の平年値が15℃以下となる初日を安全成熟期晩限日とすると、各アメダス観測所では10月15～25日になります。
- 3. 栽培管理支援APIに観測所の緯度・経度を入力すると、平年気象条件での稚苗移植栽培で、安全成熟期晩限日までに成熟期に達する移植晩限を確認できます。晩生の品種ほど、あるいは標高の高い地点ほど、移植晩限は早まります。他の地点についても、最寄りの観測所の安全成熟期晩限日を参考にすれば、同様の確認が可能です。
- 4. 移植時期が遅くなるほど、登熟初期の高温被害を回避しやすくなりますが、収量は低下する傾向がありますので、移植晩限より前であっても、圃場や用排水路が復旧したら、できるだけ早く移植してください。

アメダス観測所	珠洲	輪島	のと里山空港	七尾	志賀
標高 (m)	4	5.2	219	58	6
安全成熟期晩限日	10/20	10/23	10/15	10/22	10/25
品種	移植晩限				
つきあかり	7/7	7/10	6/25	7/9	7/13
能登ひかり	7/4	7/9	6/25	7/8	7/13
ひとめぼれ	6/30	7/4	6/21	7/4	7/7
コシヒカリ	6/26	7/2	6/13	7/2	7/7
日本晴	6/14	6/21	5/27	6/21	6/29
あきだわら	6/9	6/18	5/26	6/18	6/25

参考文献

1) 水稲の移植栽培における晩限日の推定について
<https://www.naro.go.jp/laboratory/carc/contents/files/0428.pdf>

2) 気象情報とICTを活用した水稲、小麦、大豆の栽培管理支援API標準作業手順書
https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/laboratory/naro/sop/158153.html

問い合わせ先：農研機構 中日本農業研究センター広報チーム 029-838-8421